

## 第1章 宇土市の概要

### 1. 位置及び地勢

宇土市は、熊本県のほぼ中央部、広大な熊本平野の南部に位置しており、宇土半島の山々を南に連ね、西には有明海、北には緑川河口の肥沃な土地が広がる温暖で自然豊かな都市です。

また、多種多様な海の生き物と広大な干潟という特徴を持つ有明海に面し、緑川下流部に平野と宇土半島に連なる山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれています。なかでも、環境省の名水百選に選ばれた「轟水源」や、同じく渚百選に選ばれた「御輿来海岸」は、本市のシンボルになっており、優れた自然と宇土城跡や網田焼窯跡に代表される歴史的な文化遺産が数多く点在しています。

現在の市街地は、古くは宇土藩3万石の城下町として発展し、その街並みも今に受け継がれ、情緒漂う都市景観を形成しています。

このような自然や文化に対する市民意識は高く、後世へ残したい地域の遺産として保全、活用を行うなど様々な市民主体の取組が行われています。また、本市は陸海の交通の要衝地にあるため、古くから政治・文化の中心地として栄えてきました。

現在も、県内の主要道路や鉄道が集中しており、通勤や通学、買物、余暇活動などの日常生活において交通の利便性が高い住みやすい都市です。

#### ◆市役所の位置

名称	所在地	東経	北緯
宇土市役所	熊本県宇土市浦田町51番地	130° 39' 31"	32° 41' 14"

#### ◆広ぼう・面積

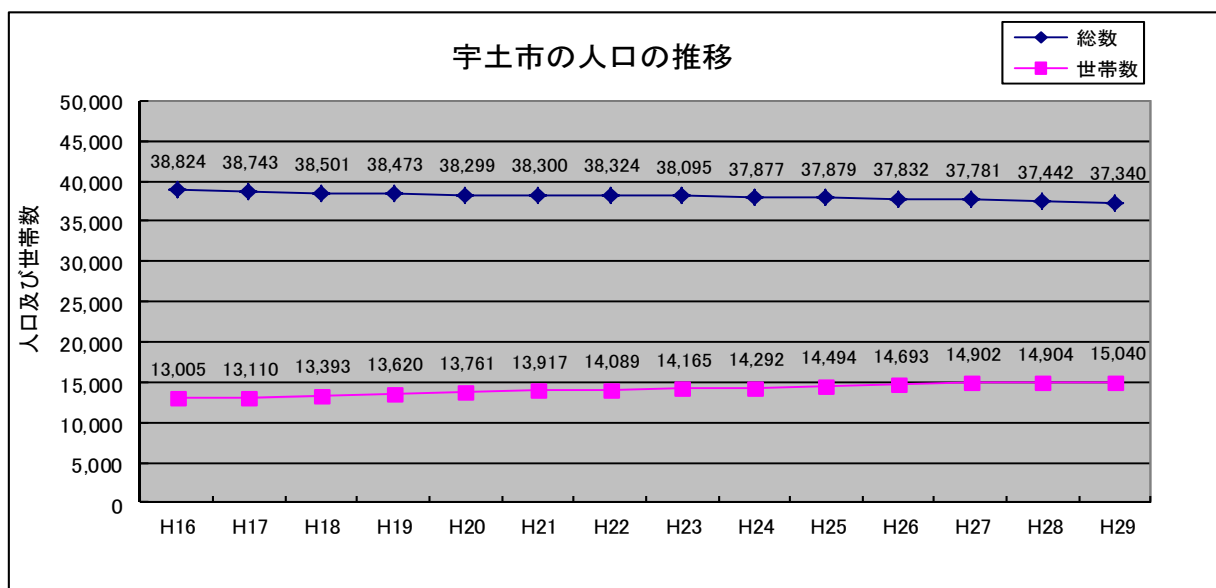
東西	南北	面積
20.4km	7.9km	74.30km <sup>2</sup>



宇土市の位置

## 2. 人口及び世帯

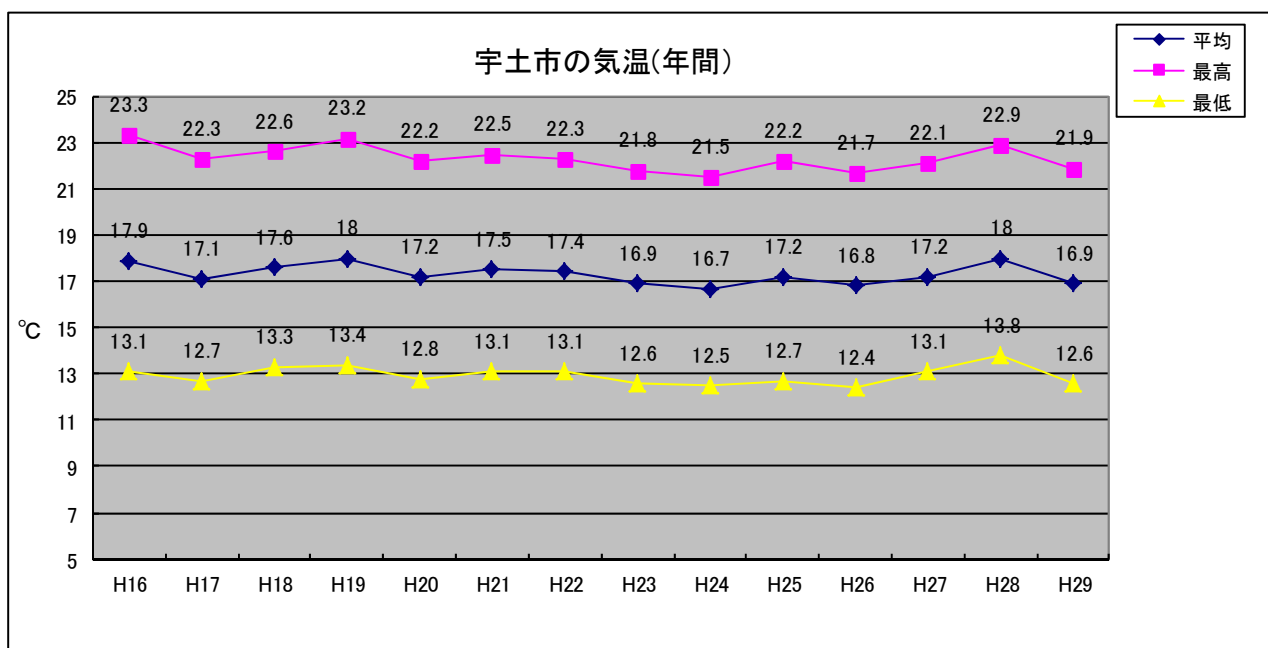
宇土市の人口は、平成16年をピークに減少傾向にあります。しかし、世帯数は依然増加傾向がみられます。



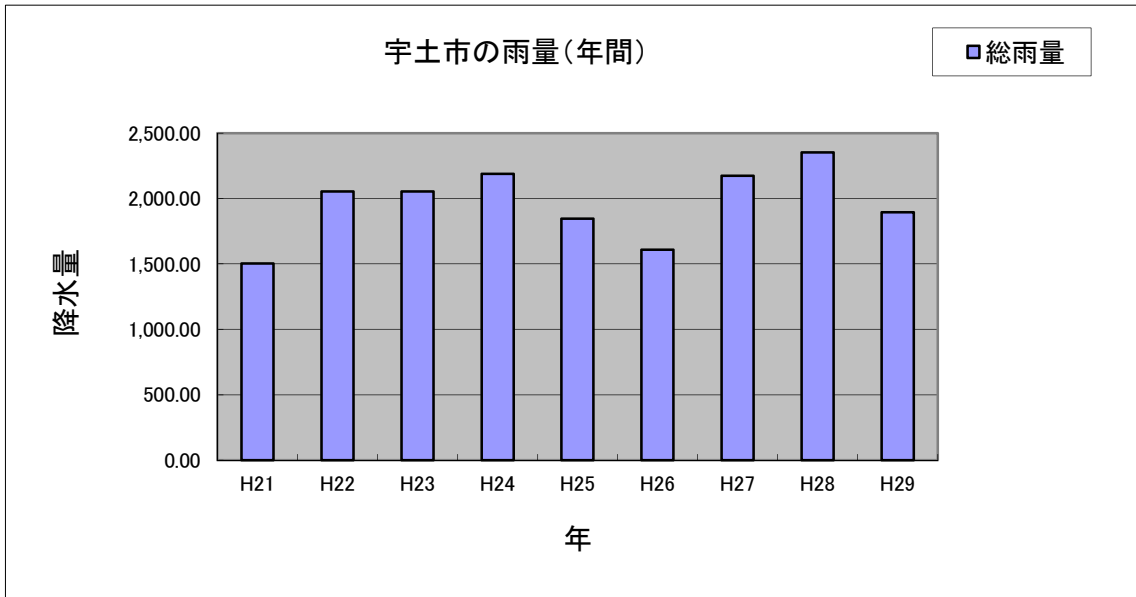
資料：宇土市市民課／住民基本台帳（毎年3月31日現在）

## 3. 気象

宇土市の気候は内陸型に分類され、夏は蒸し暑く、冬の冷え込みが厳しい気候となっています。平成29年の年間降水量は1,894mmでした。



資料：熊本地方気象台（ホームページ）

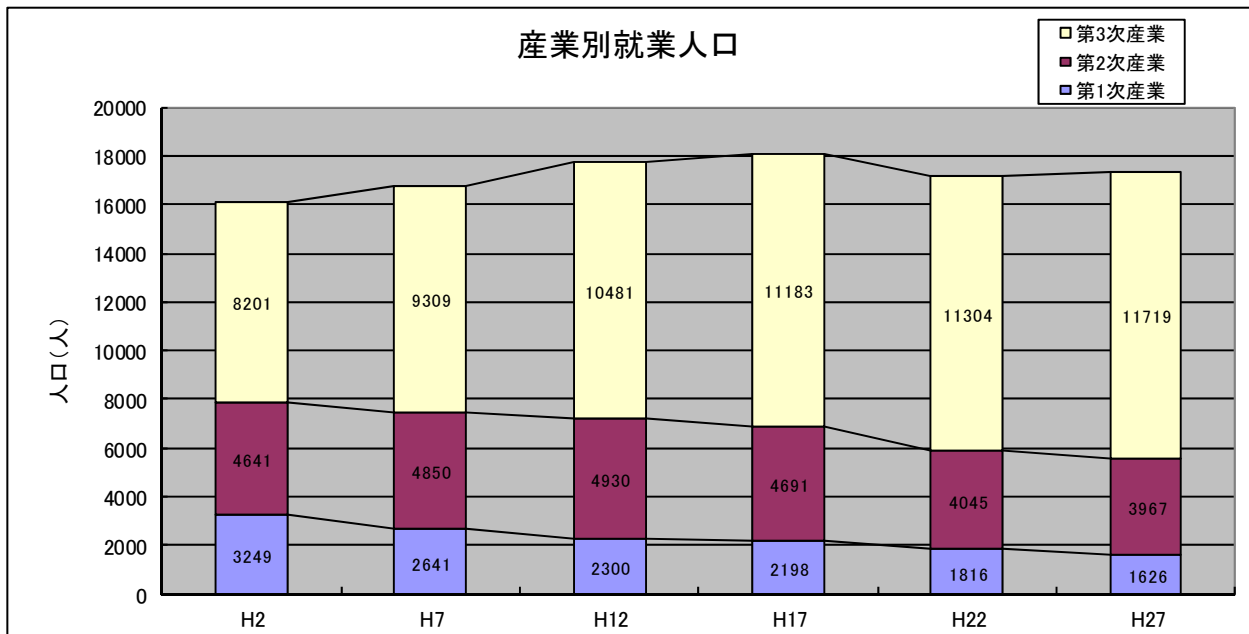


資料：熊本地方気象台（ホームページ）

#### 4. 産業構造

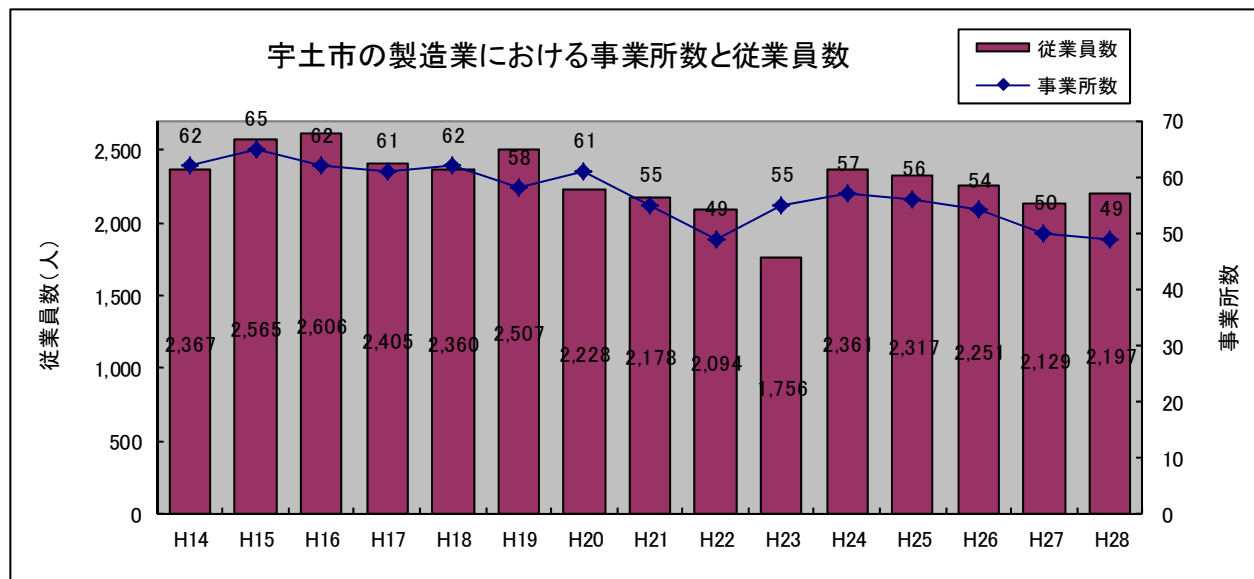
宇土市の産業構造は、サービス業や卸売・小売業を主とする第3次産業が中心となっており、平成27年においては全体の約7割を占めています。

##### (1) 産業別就業人口



資料：国勢調査，平成28年度版「宇土市の統計」

(2) 事業所数, 従業員数, 製造品出荷額等



資料：経済産業省 工業統計調査表，H28 経済センサス  
注) 事業所は4人以上の事業所が対象です。

5. 土地利用

宇土市の平成29年度における土地利用状況で最も多い地目は山林の24,986,724㎡で、市全体の約34%を占めています。続いて田の14,117,122㎡、畑9,181,943㎡、宅地8,081,093㎡の順となっています。

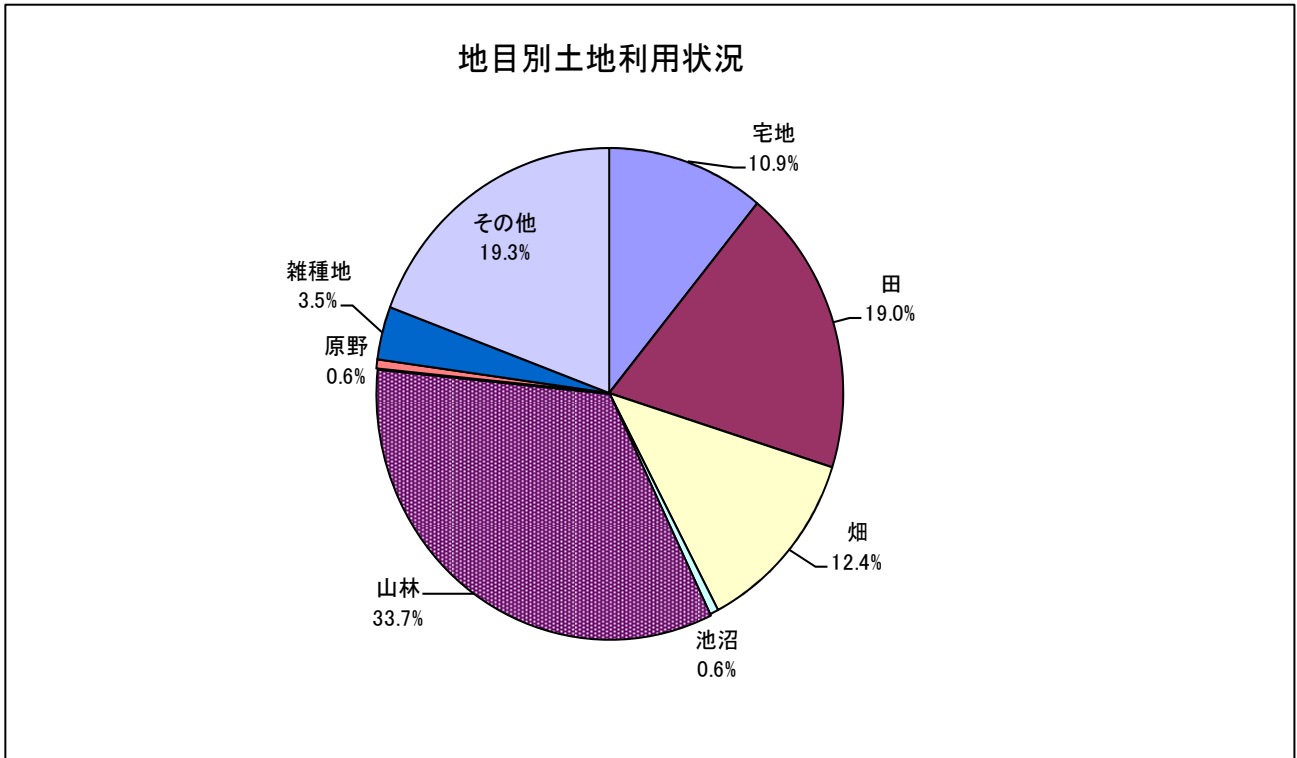
(1) 都市計画用途区域

平成29年3月31日現在

区分		面積(ha)	構成比(%)	
用途地域	第1種低層住居専用地域	3.6	7.1	50.9
	第1種中高層住居専用地域	13.5	26.7	
	第2種中高層住居専用地域	0	0	
	第1種住居地域	6.5	12.9	
	第2種住居地域	1.6	3.2	
	準住居地域	5	1.0	
	近隣商業地域	4.7	9.3	14.1
	商業地域	2.4	4.8	
	準工業地域	6.2	12.3	3.5
	工業地域	7.7	15.2	
	工業専用地域	3.8	7.5	
	合計		50.5	100
都市計画区域		1,832	—	

資料：宇土市都市整備課／宇土市域分のみ

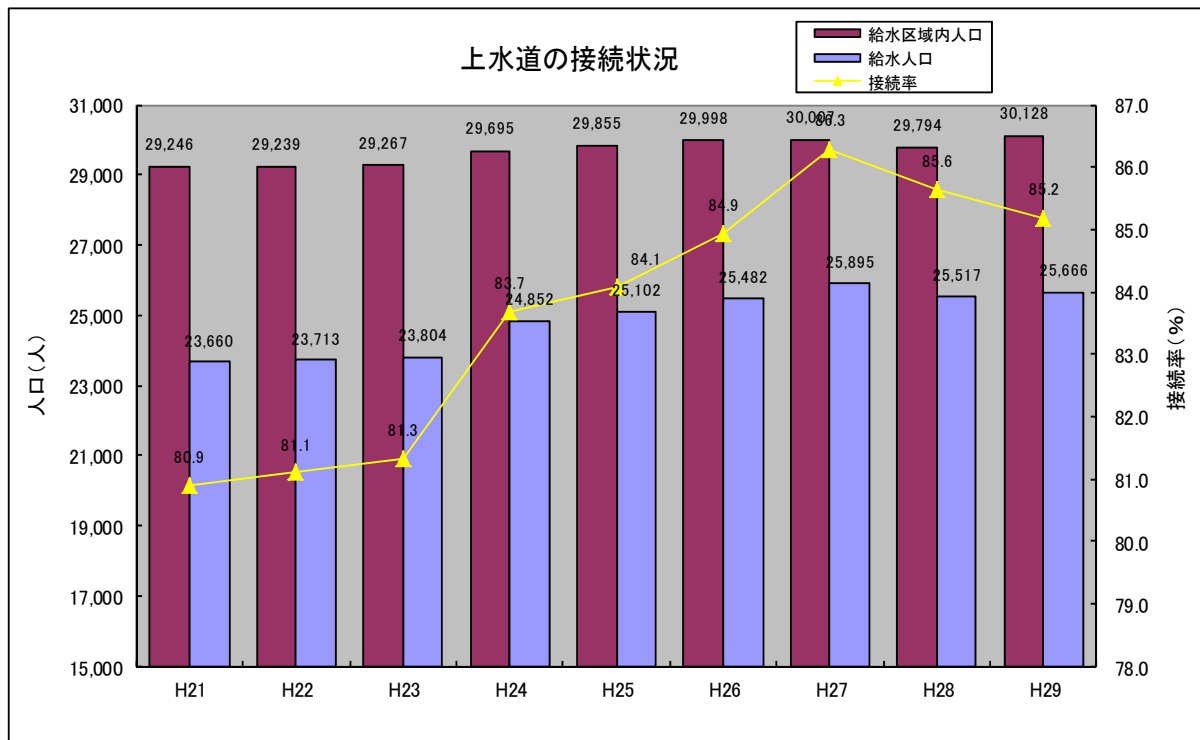
(2) 地目別土地利用状況面積



資料：宇土市税務課／固定資産概要調書（平成29年1月1日現在）

6. 上水道

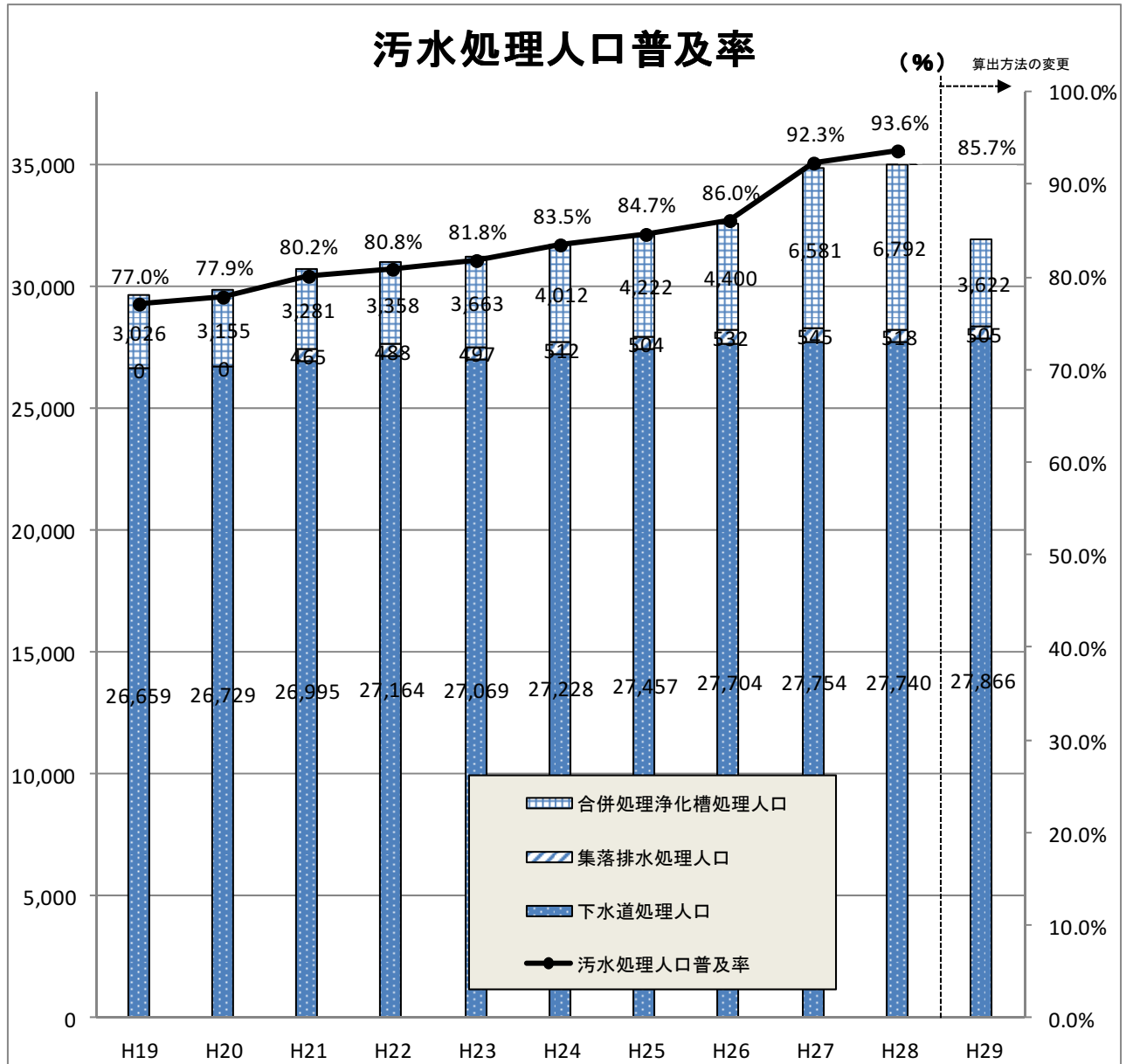
平成29年度における宇土市の上水道の普及状況は、給水区域内人口30,128人、現在給水人口25,666人となっており、接続率にして85.2%となっています。



資料：宇土市上下水道課

## 7. 汚水処理

平成29年度末における宇土市の汚水処理人口は31,993人であり、内訳は下水道処理人口27,866人、集落排水処理人口505人、合併処理浄化槽処理人口3,622人となります。また、汚水処理人口普及率は85.7%となります。



資料：宇土市環境交通課／浄化槽等処理人口調査

\*汚水処理人口普及率…下水道、漁業集落排水施設、合併処理浄化槽の汚水処理施設の整備人口を各市町村の行政人口（住民基本台帳人口）で除した指標です。年々増加傾向にありますが、平成29年度は算出方法を変更したことにより85.7%です。